

拓水

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 785

3

March.2022

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会まであと **8** ヶ月



イカナゴ新子漁 始まる (神戸市垂水区)

特集 全国豊かな海づくり大会について

CONTENTS

- 2 特集 全国豊かな海づくり大会について
- 4 ようそろ
イカナゴ新子漁 始まる
- 5 JF明石浦「海底耕耘」紹介動画
最優秀賞受賞
明石市立文化博物館 漁具など100点展示
- 6 「拓水」リニューアルのお知らせ
神戸市立須磨海浜水族園
企画展「ひょうごの魚を知ろう！」開催中
- 7 ラジオ関西での豊かな海プロモーションの実施
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより

全国豊かな海づくり大会について

特集

全国豊かな海づくり大会とは

水産資源の維持培養と海の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めるための幅広い国民的行事です。



大会シンボルマーク

大会の概要

大会は昭和56年より始まり、豊かな海づくり大会推進委員会*と都道府県の組織する大会実行委員会が主催し、農林水産省、環境省が後援しています。大会会長は委員会最高顧問の衆議院議長が務めます。

大会には天皇・皇后両陛下のご臨席が慣例となっており、全国植樹祭・国民体育大会・国民文化祭と並び4大行幸啓の一つに位置付けられていますが、開始当初は明仁親王が皇太子として、即位後に天皇として御臨席されています。令和3年にコロナ禍で開催された宮城大会では、天皇・皇后両陛下はリモートでご参加されています。



秋田大会の様子

大会では式典行事と海上歓迎・放流行事が行われ、式典行事では天皇陛下のおことば、功績団体等の表彰、大会決議など、海上歓迎・放流行事では漁船による海上歓迎、天皇・皇后両陛下と参加者による稚魚放流などが行われます。

*豊かな海づくり大会推進委員会 会長：JF全漁連会長、会員：水産中央団体等12団体

過去の開催地と開催予定地

開催県	開催地	開催日	開催県	開催地	開催日
第1回 大分県	鶴見町松浦漁港	S56.9.29	第23回 島根県	浜田市浜田漁港	H15.10.5
第2回 兵庫県	香住町香住漁港	S57.7.27	第24回 香川県	高松市サポート高松	H16.10.3
第3回 和歌山県	串本町串本漁港	S58.7.17	第25回 神奈川県	横浜市みなとみらい21	H17.11.20
第4回 三重県	浜島町浜島港	S59.10.6	第26回 佐賀県	佐賀市、唐津市、東与賀町	H18.10.29
第5回 北海道	湧別町登栄床漁港	S60.9.9	第27回 滋賀県	大津市びわ湖ホール、大津港	H19.11.11
第6回 福井県	小浜市小浜漁港	S61.10.6	第28回 新潟県	新潟市朱鷺メッセ	H20.9.7
第7回 鹿児島県	枕崎市枕崎漁港	S62.7.19	第29回 中央大会	東京海洋大学	H21.10.31
第8回 茨城県	大洗町大洗港	S63.10.23	第30回 岐阜県	関市文化会館、長良川河畔	H22.6.13
第9回 広島県	安浦町グリーンピア安浦	H元.9.10	第31回 鳥取県	鳥取市文化会館、鳥取港	H23.10.30
第10回 青森県	三沢市三沢漁港	H2.7.22	第32回 沖縄県	糸満市体育館、糸満漁港	H24.11.18
第11回 愛知県	南知多町豊浜漁港	H3.10.27	第33回 熊本県	熊本県立劇場、熊本港ほか	H25.10.27
第12回 千葉県	勝浦市守谷海岸	H4.11.8	第34回 奈良県	大淀町会館、川上村龍神湖	H26.11.16
第13回 愛媛県	伊予市森漁港	H5.11.7	第35回 富山県	射水市ホール、海王丸パーク	H27.10.25
第14回 山口県	長門市仙崎漁港	H6.11.20	第36回 山形県	酒田市民会館、鼠ヶ関港	H28.9.11
第15回 宮崎県	日南市油津漁港	H7.11.12	第37回 福岡県	宗像ユリックス、鐘崎漁港	H29.10.29
第16回 石川県	珠洲市蛸島漁港	H8.9.16	第38回 高知県	高知市文化プラザほか	H30.10.28
第17回 岩手県	大槌町大槌漁港	H9.10.5	第39回 秋田県	秋田県立武道館、秋田港	R元.9.8
第18回 徳島県	鳴門市好海総合公園	H10.11.15	第40回 宮城県	石巻市文化施設、石巻漁港	R3.10.3
第19回 福島県	相馬市松川浦漁港	H11.10.3	第41回 兵庫県	明石市民会館、明石港	R4.11.13
第20回 京都府	網野町八丁浜	H12.10.1	第42回 北海道	厚岸町厚岸漁港	R5
第21回 静岡県	焼津市新焼津漁港	H13.10.28	第43回 大分県		R6
第22回 長崎県	佐世保市アルカスほか	H14.11.17			

昭和57年度全国豊かな海づくり大会について

開催方針(抜粋)

自然を守り育て、水産資源の増大をはかり、次の世代に引き継ぐことが重大な責務であり、本大会を開催し、広く国民の自然環境の保全に対する意識の高揚と水産資源の保護培養を積極的に推進し、わが国水産産業の振興と豊かで活力のある地域産業の発展に資する。

主催

豊かな海づくり大会推進委員会

(社)大日本水産会・全国漁業協同組合連合会・(社)日本栽培漁業協会・(社)日本水産資源保護協会
(財)漁場油濁被害救済基金・(社)日本定置漁業協会・(社)全国沿岸漁業振興開発協会

兵庫県

開催期日 昭和57年7月27日(火)

開催場所 式典行事：城崎郡香住町境 香住町産地流通加工センター
稚魚放流行事：香住町地先海上
マダイ10万尾、ブリ3千尾、マアジ37百尾、イシダイ5百尾

大会テーマ ふるさとの海を豊かに美しく

大会参加者 県外1,000人、県内3,000人
稚魚放流行事参加船230隻

昭和57年に兵庫県で
第2回大会が開催さ
れたんだよ!



放流会場に向かう参加船



お言葉を述べられる皇太子殿下



御召船から御放流される皇太子同妃両殿下

皇太子殿下おことば

「ふるさとの海を豊かに美しく」をテーマとして、全国各地から水産関係者が、ここ兵庫県香住町の地に集い、昭和五十七年度全国豊かな海づくり大会が開催されることは、まことに喜ばしいことであります。

暖流と寒流の寄せる日本は、豊かな水産資源に恵まれ、古くから食糧のかんりの部分を海に依存してきました。しかしここ三十年ばかりの間の急速な産業の発達と人口の特定地域への集中は、浄化能力を超えた海の汚染と生物の住みかを無くしていく人工海岸の増加をもたらしました。このように各地でふるさとの海は大きく変ぼうし、海の生産力は弱まる結果となりました。

さらにさまざまな漁獲技術の発達により漁獲量の増加は水産生物の再生産の範囲を超えることが、資源の減少をもたらしつつあります。日本海に名だたるズワイガニが減少しているのもその一つであります。

一方、世界の人口は増加の一途をたどっており、将来の食糧の供給には、決して楽観を許さないものがあります。従って今までそれほど食料を海に頼らなかつた国の人々にとつても、水産資源に対する関心が高まってくるものと思えます。

このため世界の各地で水産資源を適切に管理し、水産産業が永続し得る状態をつくり出すことは、きわめて必要なことであり、わが国もその例外ではありません。

近年わが国の各地で海の環境をよくすることに人々が努力するようになり、栽培漁業の発達と相まって、水産資源の確保に明るい兆候が見え始めたことは、非常にうれしいことであります。

このような時期に、「ふるさとの海を豊かに美しく」のテーマの下に、この大会が開かれることは、深い意義を有するものと思えます。この大会を契機として水産産業に携わる人はもとより、一般の人々も豊かな海づくりに関心をもち、この大会のテーマに沿うよう努力されることを期待します。そして海が日本人の心につまでも美しく豊かなものとして映り続けることを願ひ、大会に寄せることばといたします。

ようこそ

「ずっと真つ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるときのみ令として使われる）

趣味馬鹿オヤジです

兵庫県農政環境部農林水産局水産課資源増殖室漁場整備班班長 岩佐 隆宏



私の趣味は、小学生の頃から途切れなく続いている魚釣りと就職して初めての勤務地が但馬だったおかげで始めたスキーです。釣りはかれこれ45年、スキーも30年を超えるキャリアとなりました。水産の世界に足を踏み入れるきっかけになったのも趣味の魚釣りが大きく影響しています。

魚釣りの経歴は、フナ釣りに始まり投げ釣りを経て、中学生の終わり頃からブラックバス釣りにハマリ、就職後は30代前半まではアルミボートを車に積んで琵琶湖までブラックバス釣りに足繁く通ったり、マグロ釣りで沖繩遠征に混ぜてもらったり、あちこちの遊漁船に乗船した時期もありました。近年は、一人で気ままに岸からの釣りが中心となり、春には県内のため池をメインにブラックバス釣り、夏以降は明石周辺の海でのルーアー釣りで青物やスズキ、アオリイカなどを12月頃まで追いかけています。年末以降は但馬の山に降雪があるとスキーに転向して3月頃まで雪山に通うというのが私の趣味の年間サイクルです。

近場での釣りがメインになってから釣果は別として釣行日数だけは増えていき年間80日は早朝から水辺に立っていました。さすがに県庁勤務となった令和3年は、出勤前の朝練ができなくなるなどで悲しいかな2割ぐらい釣行日数が減ってしまいました。

スキーはシーズン10日の入山を目標としているのですが、近年は減多に目標に届くことはなく、雪のたくさんある今シーズンでも2月末時点で入山5日と少し寂しい状況です。加齢に伴う体力低下もあって自身の技術は現状維持も叶わないのですが、子供の上達が楽しみの一つとなっています。

いつまでこの道楽生活が続けられるか、釣りはまだ見ぬ全長60cm超えのブラックバスや岸から10kg級の青物を釣り上げられることを、スキーは60歳を越えても新雪やコブ斜面に入っていけることを目標としています。

イカナゴ新子漁 始まる！ ～今年は3月1日に解禁～

瀬戸内海に春の訪れを告げるイカナゴ漁が3月1日、播磨灘と大阪湾で一斉に解禁されました。

解禁日はくぎ煮に適した約40ミリの新子が水揚げされ、浜では待ちわびたイカナゴの解禁に活気づきました。

イカナゴ新子漁の漁期は以前1カ月程度ありましたが、近年は極端な不漁のため、資源保護を理由に短期間での終漁となっています。今年も県立水産技術センターによると、播磨灘、大阪湾ともに「平年を下回る」予測となっており、同センターの調査では、海中の窒素やリンの減少により、餌となるプランクトンが減少しイカナゴ資源の長期的減少要因であると考えられています。現在、漁業者により豊かな海の実現を目指し、海底を掘り返し堆積物に含まれる栄養素を海へ放出するなど、栄養塩環境の改善対策を進める取り組みが行われています。



豊かな海へ、漁業関係者の思いを伝える

JF明石浦「海底耕耘」紹介動画が最優秀賞受賞

農林水産省、消費者庁、環境省の連携プロジェクトで、食と農林水産業に関する持続可能な取組を広く国内外に発信していくことを目的として、取組を分かりやすく紹介する動画を表彰する「サステナアワード2021」伝えたい日本の「サステナブル」において、明石浦漁業協同組合（戎本 裕明代表理事組合長）と東播磨県民局が連携して作成した「豊かな海へ」海底耕耘プロジェクト」動画が、92の応募作品の中から農林水産大臣賞を受賞しました。動画は、海底の堆積物を掘り起こし、窒素やリンなどの栄養塩を海に放出する「海底耕耘」をテーマに、海中の映像を交え、関係者約30人が登場し、



表彰状を手にする戎本組合長

す。2月14日に行われた表彰式では、審査員から「たくさんの方々の思いが込められており、世界中で参考にしてもらえる」と高い評価を受けました。また、2月17日には、戎本組合長から兵庫県齋藤知事へ受賞報告がなされ、齋藤知事は「動画はわかりやすく、たくさんの方が参画して作られているのも素晴らしい。今の時代に大事な持続可能な農林水産業の取組み、子供たちにも見てもらい、国内外で広く発信してほしい」と広がり期待を示されました。

同誌の取材に対して、戎本組合長は、「漁業者の思いが伝わり評価されたのがうれしい。海底耕耘は兵庫県の漁業者が以前から実施している活動の一つ。漁業者が行っている活動がSDGs（持続可能な開発目標）としての取組みになっている。今後も、海の環境のための取組みを様々な人と協力して進めていきたい。」と話されました。

海底耕耘プロジェクトのムービーはこちら

豊かな海へ



いざ、耕す



海底耕耘



明石市立文化博物館で 漁具など100点展示

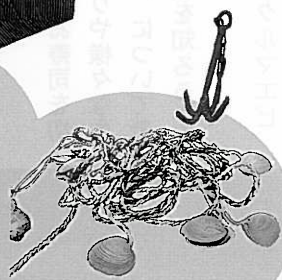
漁業関係者が寄贈した昭和期に使われていた漁具などを紹介する企画展「くらしのうつりかわり展―海辺の生活」が明石市立文化博物館で3月21日まで開催されています。

タイ網などの漁具のほか、ドンダ（仕事着）、ドブネ（生簀）、ニナイかご、沖弁当といった先人の知恵が詰まった道具類約100点が展示されています。

イイダコ漁の漁具について、吉本由梨香学芸員は「弥生時代の素焼きの壺から、身近な素材の貝殻に変化しており面白」と解説。「漁業関係者のお陰で企画展が実現しました。是非見に来てもらいたい」と話されました。皆様も足を運ばれてはいかがでしょうか。



ドンダ



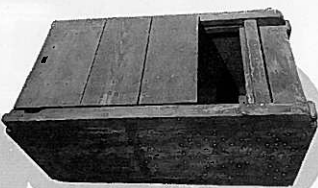
イイダコ漁具



沖弁当



ミナイかご



ドブネ

「拓水」リニューアルのお知らせ

「拓水」は系統内の行事や取組の結果を主体とした内容で皆様にお届けしてきましたが、コロナ禍でこれまで通りの紙面づくりが難しくなったため、約10年ぶりにリニューアルします。

紙面の変更に先立ちアンケート調査を実施したところ、現在の「拓水」では「ようそろ」「特集記事」といった読物的な記事がよく読まれており、今後の掲載希望記事としては「JFの取組事業紹介」が最も多く、「他府県の取組事例紹介」「水産技術センターの研究成果」などが続くことが分かりました。アンケートにご協力いただきました団体の皆様有難うございました。

このアンケート結果をもとに、系統団体や県の担当で構成する拓水編集会議を2度開催し、リニューアル内容を詰めていきました。

JFグループ兵庫の構成員を結ぶ架け橋として、786号（令和4年4月10日発行）からは新たな紙面構成で、皆さんに役立ち、親しまれる情報をお伝えしていきますので、一層のご愛読をお願いします。



タイトルバナー

ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会では、毎年、「豊かな海」を考える企画展を神戸市立須磨海浜水族園と連携して開催しています。

今年も、みんなが大好きなお寿司を切り口に、海と私たちの繋がりがりや様々な生物を育む「豊かで美しい海」について考える企画展「ひょうごの魚を知ろう！」を開催中です。

神戸市立須磨海浜水族園で
企画展「ひょうごの魚を知ろう！」が
開催中!!

寿司ネタとなるマダイやクルマエビ、シヤコ、ノリなどを展示した水槽の隣には、回転寿司を模した「寿司プラレール」も運行中です。

栄養塩が減少している瀬戸内海の現状や魚の鮮度保持方法を説明するパネルも同時に展示しています。

回答すると特製グッズがもらえるアンケートも実施中です。数に限りがあるのでお早めにお越しください。

開催期間…令和4年2月11日(金)～3月27日(日)
場所…神戸市立須磨海浜水族園

本階2F企画展示ブース

(ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会)



企画展の様子

ラジオ関西での豊かな海プロモーションの実施!!

ひょうご豊かな海発進プロジェクトでは、豊かな海づくりへの県民への理解と参加を促すため、「漁業者自ら語る!!」をコンセプトに、県内各地の漁業や魚、豊かな海づくりに向けた熱意を漁協組合長等が自ら発信するラジオプロモーションを実施しています!

〈番組概要〉

- (1) 実施期間 令和4年2月～11月までの10ヶ月間で、毎月1回、計10回放送予定
- (2) 放送時間 月曜日 13:00～13:25
第1回目は2月21日(月)、第2回目は3月7日(月)に放送済み
今後も月1回を目処に放送を予定
- (3) 番組名等 ラジオ関西「正木明の地球にいいこと」
- (4) 出演者 正木明、萩野恵美子(アシスタント)
- (5) 提供 ひょうご環境創造協会
- (6) 主な内容
 - ・現在の瀬戸内海の現状や漁業が抱える問題、「豊かな海」の再生に向けた取組について、視聴者に伝えます。
 - ・視聴者に興味を持ってもらえるよう、各回に「旬の水産物」をテーマとして設定し、浜での美味しい食べ方などを話題提供します。
 - ・11月に開催される海づくり大会について、番組内で紹介し、機運醸成を図ります。

なお、記念すべき第1回目は片山組合長(JF育波浦)が、第2回目は小磯組合長(JF南あわじ)が収録に参加されました!



収録の様子(片山組合長)



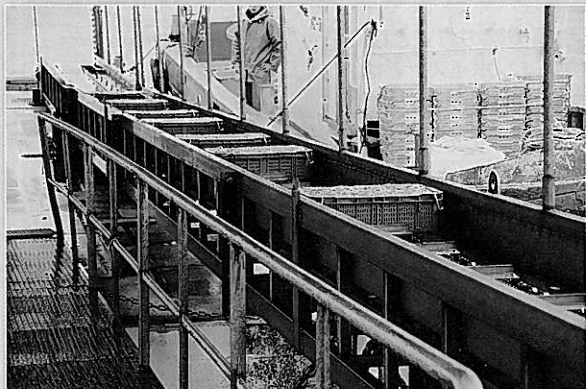
収録の様子(小磯組合長)

〈聞き逃した方はこちらからどうぞ〉

(公財) ひょうご環境創造協会HP:

https://www.eco-hyogo.jp/ecoplaza/article_entry/news/radio/

(ひょうご豊かな海発進プロジェクト協議会)



表紙の言葉

「イカナゴ新子漁 始まる」(神戸市垂水区)

瀬戸内海に春を告げるイカナゴ漁が、3月1日に解禁しました。解禁日当日、開店前のスーパーに並ぶお客さんを見て、今年もイカナゴ漁が始まったのだなと感じながら取材に向かいました。

春の風物詩となった、イカナゴの釘煮を炊く甘い薫り、イカナゴを購入するための行列、今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。

写真は、解禁日にJF神戸市の港で水揚げされるイカナゴ新子です。(関連記事4項)

タマネギの生産振興により、 農家所得の増大を後押し

JAみのりは、平成29年からタマネギの生産振興に取り組んでいる。三木別所地区においても平成30年から栽培を始め、令和2年度の栽培面積は260aとなった。タマネギ栽培は二毛作を可能とし、水稻収穫後のほ場を有効活用することにより、農家所得の増大を図ることができる。JAみのりでは、タマネギ栽培における作業省力化に向けて、収穫機や移植機等のリース事業や共同利用を行い、農業生産の拡大をすすめている。

三木市別所町の生田忠美さんは、水稻栽培を長年行っているが、JAみのり職員からの提案を受け、4年前からタマネギ栽培を始めた。作付面積は、初年度が20aであったのに対し、現在は1haまで拡大。新規でのタマネギ栽培や面積の拡大には、営農指導員である西川敬介さんをはじめとする三木営農経済センター職員との気兼ねなく相談できる関係性が後押しした。

西川さんは、8年前から三木地区で水稻を中心とした栽培指導を行っており、生産者からの信頼が厚い。生田さんは「タマネギ栽培を始めてから、センター職員がより近い存在になった。営農指導や販売のことだけでなく、地域農業の将来まで相談できる関係になった」と話す。西川さんはタマネギ栽培について、「生産者やJA、行政を交えて地域一体となって取り組んでいきたい」と話す。

JAみのりでは、今後もタマネギの生産拡大に向けて、地域一体となって栽培技術の向上や作業省力化等をすすめ、農家所得の増大と農業生産の拡大へ向けて取り組んでいく。



植え付けたタマネギ苗の生育状況について話す生田さん(左)と西川さん

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

2021年度

「ひょうご消費者セミナー」 を開催

2月11日(金)、生活協同組合コープこうべ、認定NPO法人ひょうご消費者ネット、NPO法人消費者支援機構関西(KC's)、兵庫県生活協同組合連合会、の4団体主催、兵庫県立消費生活総合センター共催、神戸市後援で「2021年度ひょうご消費者セミナー」をオンラインで開催し、71人が参加しました。

このセミナーでは、「適格消費者団体」や「特定適格消費者団体」、「消費者団体訴訟制度」についての理解を深めるとともに、幅広い世代の消費者が被害にあわないよう講演を通して学んでいます。

今回は、「18歳はもう大人～被害者にも加害者にもならないために～」と題して、NPO法人C・キッズ・ネットワーク 理事長の大森節子さんから目前に迫った成人年齢引き下げに対し、成人を迎える若者がどのような点に注意すればよいか具体的にわかりやすく解説いただきました。未成年者契約取り消しができなくなることによってどのようなリスクを負うことになるのか学び、安易にやっちはいけないアルバイトや悪質業者の手立てを知るとともに、若者が陥りやすいマルチ商法の手口なども動画で紹介がありました。合わせて、適格消費者団体(ひょうご消費者ネット、消費者支援機構関西)の紹介動画やコープこうべが兵庫県と共同作成した啓発動画も紹介しました。



講師 NPO法人C・キッズ・ネットワーク 理事長 大森節子さん

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

シュウチンボン

袖珍本と文庫本・豆本

◆袖珍本はポケットに入る大きさの携帯に便利な小型本で、表紙が厚くガッシリした造りで価格は少し高め、箱入りもあって愛蔵するには相応しい。出回りが少ないため小さな書店では余り見掛けない。大抵は注文取り寄せでも手に入り難く、古本屋で稀に見つけると歓声を挙げたくなる程のものだ。三月書房の小型本で安藤鶴夫の『百花園』はそうして入手した。当時、彼の著書に拘っていたから嬉しく、すぐ手に取れる棚に並べた。可愛い小型本を30年来出版している書肆で、随筆や趣味の俳句集が多い。袖珍本は嬉しくなる本なのだった。

◆文庫本を集めるのに熱中していた頃、岩波文庫の☆マーク一個を集めることに集めた。狭い部屋の3面を書棚とし、順次並べて得意になり読む事にも追われた。しかし、集めた本は年を経る毎に、赤茶けて全く価値が無くなると気づいた。価値が無いばかりか酸性紙の欠点が出て、読むに耐えなくなる。新聞の切り抜きと同じように赤く変色したゴミの集団と変わる。以前、新聞の連載小説を糊貼りして本にして喜んだ時期があった。何の事はない焼却以外にないゴミを造っていたのだ。近代の用紙と比べて、和紙の古い絵巻物に変質という面では破格の善さを示している。色合いも良く紙質の感じも最高なものである。

◆豆本にも拘りを持った時期があり、講座に参加し専門家の講義も受けた。実際に、新聞連載のコラム記事を集め小さな本にした。柿衛文庫選文の長期の掲載だった文章は、四ヶ月毎に纏めて9冊の可愛い本になった。鬼貫の新年の句に始まり月花の句で終わる。歳時記風な編集で楽しく、豆本の出来は拙いが気に入っている。日本古書通信社の出版した串田孫一の豆本が手に入った。手触り感触も素晴らしく、著者が表紙と版画を手彩した特装本で眺めるだけでも癒される。特装本は部数が極めて少なく、愛蔵され古書店へは殆ど出回らない。

◆豆本もそうだが人は小さな形のものを愛玩する風潮が昔からあった。人形の部屋を作り小さな家具を揃えたり、小さな豆盆栽を作る人もいる。小さな根付けを収集した人が、個人の博物館として公開しているのを見学したが、緻密な細工や珍しい形には驚かされた。何でもそうだが職人芸には、その技術の確かさに痺れるような感動を覚える。特装本の表紙絵に見蕩れ、手触りを楽しんで、本文の小さな活字をルーペを使って読んでいた。こうなると重症の病気である。呆れている家内をよそに、小さな小さな風情を愉しんでいる。善き哉善き哉。

大輪田塾だより

1月25日、2月22日に開講3講座

1月25日は「水協法概要について」、県水産課漁政班 都倉 由樹班長より、漁業協同組合の成り立ち、江戸時代の漁場管理の概念から明治漁業法制定、その後、民主化・改正され水協法と漁業法へ変化した歴史等の説明が行われました。続いて、県水産課漁政班 大橋 広義主査から、水産業協同組合法の条項について詳しく説明が行われました。漁業協同組合模範定款等、細かな説明を受け、自らが所属する漁協への知識を深めるとともに法律の中に盛り込まれている協同組合の理念を学ぶ内容の濃い講義となりました。

2月22日には、「ひょうご豊かな海づくり協会の概要と栽培漁業」では、ひょうご豊かな海づくり協会 高木 英男専務理事から同協会の成り立ちや事業概要説明のほか、栽培漁業に関わる法制度や基本方針、豊かな海再生種苗としてナマコ、アシアカエビの新規種苗生産などの説明が行われました。

また、「水産技術センターの概要について」では、兵庫県水産技術センター 中桐 栄水産業専門技術員、堀 豊農政専門員から、同センターでは、水産資源の持続的利用と安全・安心な水産物の安定供給を図るための、漁場環境調査、漁場づくり、養殖技術、魚の病気の防除などの研究について説明が行われました。当日は栽培漁業センター施設、水産技術センター施設の見学も実施され、種苗生産・中間育成などの現場では担当者に質問する塾生もおり、大変有意義な講義となりました。



栽培漁業センター施設見学